
違う道

春雨 轍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
違う道

【コード】
N9408A

【作者名】
春雨 轍

【あらすじ】
情熱を失っていた僕は、電車やいつもと違う道でのほんの小さなことで、かすかに自分を変えていく決意をする。

(前書き)

わかりにくいかもしれませんが、読んでみてください。
短いし。

無駄に時間が過ぎていくとしか思えなかった。漠然とした情熱を失った僕は、以前のように何かに夢中になることもなく、ただいたずらに悶々の日々を過ごしていた、というよりむしろやり過ごしていた。読まれなくなった本にホコリが付着し始めるがごとく、いつそ時が止まってしまつてうす汚れることがなくなつたらどんなによかつたらう。周りの環境も人もなにもかもが僕に同調し、成長し、進むことをやめたようにも見えた。なにか変えなくては、と不安に思つていたのも、もう昔の話だつたのかもしれない。

まだ浅い秋の長雨が続いたある日、僕はいつもよりも遅い時間に電車の中にいた。電車のなかにはガラガラで、僕の座つてる席の前にも誰もいなかった。車中では無理やり眠るのが常だつたが、たまたま向かい側の窓が目に入ってきた。向かい側の窓には僕が座っている後ろの景色がぼんやり映っている。さまざまな色の光の点、マンシヨンの規則正しく並んだ光の粒なんかながなが急いで走っているように感じられたのだ。その躍動感のある映像の前には蝉の抜け殻のような僕がいた。そのときそのなんでもない映像が僕に、胸がつかえるような、鳥肌が立つような、実に奇妙な感覚を僕に与えたのだ。

電車を降りて、自宅の最寄駅から帰る途中ふいつもと違う道を通つてみたくなつた。これも車中でのあの変な気持ちのせいなのだろうか。そうして歩きはじめて数十メートルもいかないうちに、僕の知らない新しいマンションがいつの間にか建つていたことに気がつく。モダンな雰囲気、コンクリートが露骨に見えるマンションだった。自分はこんなものが建設されていたことに気がつかなかつたのか。あんなすぐ近くの道を通つていたというのに。驚きがさめないうちに僕はおもむろに携帯電話をとりだすと、そのマンションを写真に収めた。そして明日からはこのいつもと違う道を通る決心を

し、家へ急いだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9408a/>

違う道

2011年1月13日02時30分発行